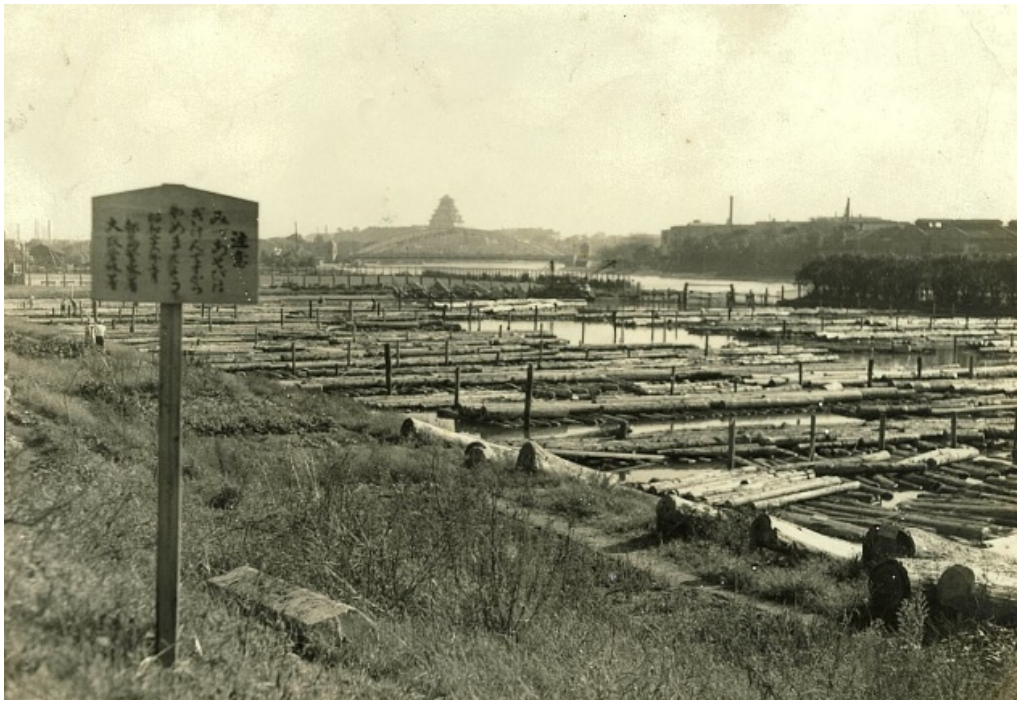
01　桜宮貯木場



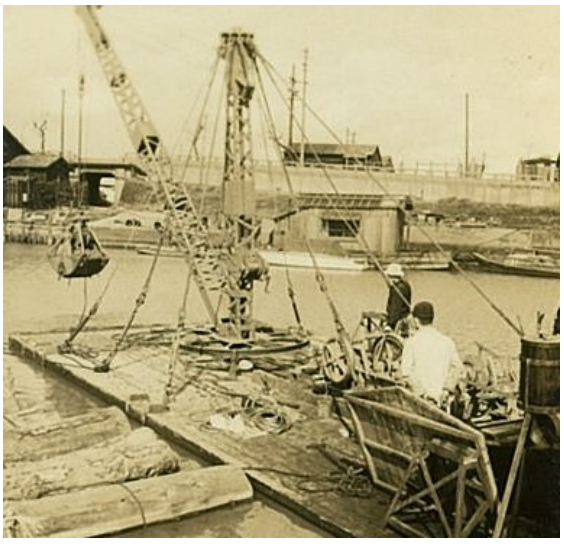
中央に桜宮橋（銀橋）、その向こうに大阪城が見える

公売材の下見に来る買受業者

第二室戸台風（昭和36年）による被災の様子（材が散乱）
向こうに見えるのは国鉄の大阪環状線

長野、東京、名古屋、大阪営林局各職員による検知方法の検討会

公売物件の椪の表示旗



貯木場の定期的な浚渫作業

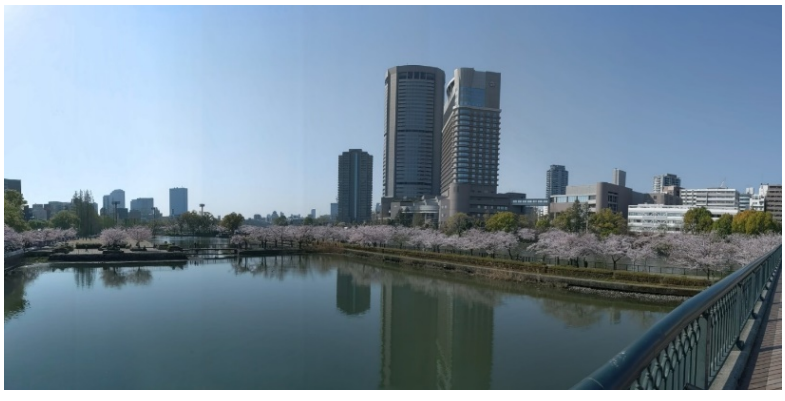
貯木場の正面玄関

貯木場に隣接する事業宿舎（現在の局庁舎敷）

桜宮貯木場の歴史

年	事項
明治41年	大阪市北区新川崎町に「帝室林野局直轄大阪貯材事務所」を設置。（１月） 貯木場敷地は淀川右岸の陸地9,256㎡。 ※　木曽・裏木曽御料林の官行斫伐材は木曽川を流下し、名古屋の白鳥貯木場で貯材処分されていたが、年々伐採量が増加して貯木場が狭くなったことや木曽材の販路拡張を図るため、東京貯材事務所（明治34年設置）に続いて大阪に同事務所が設けられた。 「帝室林野局大阪出張所」と改称。（４月）
大正2年	淀川の河川敷の占有権を取得し、水中貯木場の建設を開始。
大正3年	淀川右岸に6,022㎡の水中貯木場が完成。
大正4年	淀川左岸に41,643㎡の水中貯木場が完成。 ※　貯木場には締切水門は設けず、淀川の水が自由に流通するようにした。また、桜宮駅から直接貯木場へと木材を搬入する滑路を設けた。
昭和18年	開所以来最大となる47,000㎥の輸販材を取り扱う。
昭和22年	林政統一により「大阪営林局大阪営林署」となる。
昭和25年	熊本局材の受入れを始める。
昭和27年	発送署が17署となり、戦後最大となる17,500㎥の輸販材を取り扱う。
昭和29年	大阪営林署が廃止となり、大阪営林局直轄の桜宮貯木場となる。
昭和36年	大阪市場に大量の外材が入荷。以降、入荷量が増加して国産材の割合が著しく低下する。
昭和38年	熊本局材の最後の受入れを行う。 また、この年の前後から金沢署・敦賀署・鳥取署による天スギの生産、広島署・高野署によるコウヤマキの生産が順次縮小・廃止となる。
昭和49年	受入数量の減少、施設の老朽化等により貯木場を廃止する。

桜宮貯木場跡の現在



源八橋から見た貯木場跡
右手にある白い建物が近畿中国森林管理局の庁舎

川沿いにある「青湾（せいわん）」の碑
茶の湯を愛好した豊臣秀吉は、この付近の淀川の水が特に清らかであることを知り、ここに小湾を設けて「青湾」と名付け、長く愛用したと伝えられている（都島区説明板より）